

會務報告

第 27 卷 第 5 號 昭和 16 年 5 月

役員會

第 3 回理事會 (昭. 16. 3. 24.)

出席者: 吉田, 黒田兩副會長, 青木理事外 3 名, 中村書記長外 2 名

報 告

1. 東北支部第 16 回役員會議事。
2. 東北支部幹事に天竺良吉君, 市村益夫君, 薄田清君, 武田義明君を増員。

議 事

1. 東北支部内規第 1 條「幹事 3 名」を「幹事 7 名」に変更の件を承認。
2. 海外文獻抄録員囑託に關しては編輯部長に於て立案の上次回更に協議すること。
3. 日本出版文化協會への入會は他學協會と連絡の上入會。
4. 視察旅行は秋季に於て開催。
5. 關東及關西地方水害調査報告は一應檢閲を受け印刷に附することとして會員に對する頒布は豫約募集に依る。
6. 中國支部を可成速かに設置することとし大體管内區域を次の通りとし交渉を進むること。
廣島縣, 岡山縣(關西支部より分離) 島根縣, 鳥取縣, 香川縣, 愛媛縣
併して關西支部管内に徳島縣, 高知縣を加ふること。
7. 東亞研究所へ 4 月以降土木學會誌を寄贈。
8. 防空土木委員會各支部の費用として總額 1,000 圓(内譯省略) 交附。
9. 入退會を別記の通り承認。

第 4 回理事會 (昭. 16. 4. 5.)

出席者: 谷口會長, 吉田, 黒田兩副會長, 青木理事外 4 名, 中村書記長外 2 名

報 告

1. 定款及規則變更の件を昭和 16 年 3 月 26 日文部大臣より認可。
2. 關西支部第 2 回役員會議事。

議 事

1. 京城帝國大學理工學部へ本年 1 月以降の土木學會誌を寄贈。
2. 全日本科學技術團體聯合會本會代表委員和田重辰君辭任に依り青木楠男君を選任。
3. 支部長會議々案を別紙(省略)の通り。

第 2 回常議員會 (昭. 16. 3. 24.)

出席者: 吉田, 黒田兩副會長, 青木 常議員外 11 名, 中村書記長外 2 名

報 告

1. 理事及資産總額變更の登記を了す。
2. 4 月 17 日産業組合中央會講堂に於て講演及映畫會を開催。

3. 4 月 5 日全國支部長會を開催。

4. 北海道支部内規變更(理事會議事參照)。

5. 東北支部内規變更(理事會議事參照)。

6. 東北支部防空土木委員會設置(委員省略)。

7. 2, 3 月中入退會承認別紙(省略)

議 事

1. 1 時納付會費(正會員池邊稻生君 120 圓)を基金に編入することに決定。
2. 定款改正に伴ふ滿洲國及關東州在住の會員會費は滿洲土木學會に徴收方を委任することとして同學會との約定書を別紙(省略)の通り決定。
3. 日本出版文化協會への入會は他學協會と連絡の上入會することに決定。
4. 關東及關西地方水害調査報告は一應檢閲を受け印刷に附することとして會員に對する頒布は豫約募集に依ることに決定。
5. 増員常議員 4 名の任期は抽籤の結果次の如く決定。

昭和 17 年通常總會迄 池野 敏 夫君

同 成瀬 勝 武君

昭和 18 年通常總會迄 野坂 相 如君

同 森 豊 吉君

第 4 回支部長會議 (昭. 16. 4. 5.)

會 場: 土木學會々議室

出席者: 本 部 谷口會長, 吉田, 黒田兩副會長, 青木, 稻葉, 廣瀬, 堀越, 岩崎, 宮永各理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

關西支部 大島幹事長, 大森幹事, 中川囑託

東北支部 金森支部長, 内田幹事長

北海道支部 大坪幹事長

中部支部 田淵支部長, 小山幹事

西部支部 東幹事

朝鮮支部 星幹事

午後 2 時谷口會長の挨拶により開會, 下記事項の報告並に議案に就き協議せり。

(本部提出)

報 告

1. 満洲土木學會と提携に伴ふ定款及規則の改正に關する件。

議 案

- 1. 年次學術講演會開催地に關する件。
- 2. 中國支部設置に關する件。
- 3. 會員増加計畫に關する件。
- 4. 會員の融和連絡に關する件。
- 5. 會費徴收に關する件。

(東北支部提出)

- 1. 土木學會に國土計畫調査委員會設置の件。

(中部支部提出)

- 1. 技術者割當擴張阻止の件。
- 2. 發電水力に關する建議書提出の件。
- 3. 年次學術講演會を昭和 18 年度に於て名古屋市に開催するの件。

4. 實質的本社(名義は東京にあるも)を有する特別會員の割戻金を當該支部に配當するの件

(西部支部提出)

- 1. 防空土木委員會調査費の件。
- 2. 年次學術講演會本部支給金の件。

議 事

本部議案第 1. 第 4 回昭和 17 年度の年次學術講演會は東北支部管内に於て開催することに決定。

同第 2. 中國支部設置に關し地域的に關係ある關西支部の意見を求め協議の結果地域の併合乃至分離等に關しては本部役員會に於て研究すること。

同第 3. 會員増加に關しては各支部に於て努力することとし、准會員より正會員に轉格應選に關しては本部より資格者調査を各支部に廻付すること。

同第 4. 會員の融和連絡に關しては各支部に於て適當なる計畫を樹つること。

同第 5. 會費の徴收方法に關しては本部に於て適當なる方策を考究すること。

東北支部議案第 1. 土木學會内に國土計畫調査委員會設置に關しては各支部に於て更に研究の上本部に意見を具申すること。

中部支部議案第 1. 技術者割當擴張阻止に關しては本部に於て善處すること。

同第 2. 發電水力に關する建議書(別紙省略)提出に關して本部役員會に於て審議の上善處すること。

同第 3. 昭和 18 年度第 5 回年次學術講演會は中部支部管内に於て開催に決定。

同第 4. 實質的本社を有する特別會員の支部交附金に就ては其地方の支社或は出張所として更に入會を應選すること。

西部支部議案第 1. 防空土木委員會調査費は差當り本部決定額の通りとす。

同第 2. 年次學術講演會費は本部決定額に據ること。

以上の議事終了後午後 6 時より滿鐵ビル“あじあ”に於て防空土木委員會委員と合同晚餐會を開催す。

總 務 部 記 事

第 3 回防空土木第 3 小委員會 (昭. 16. 3. 24.)

出席者: 辰馬委員長, 岩崎委員外 7 名

- 1. 辰馬委員長より大阪支部案の説明。
- 2. 提出済の成案につき各擔當委員より説明。
- 3. 杉戸, 町田, 松井 3 委員にて今週中に取纏め提出することを決定。

第 4 回防空土木第 5 小委員會 (昭. 16. 3. 25.)

出席者: 高井委員外 6 名

協議事項

1. 石塚委員より報告書草案の報告あり、大綱に就き協議し次回迄に加筆印刷となし更に協議すること。

防空土木委員會幹事會 (昭. 16. 3. 26.)

出席者: 辰馬委員長, 春藤幹事長(代町田), 阿部幹事外 5 名

協議事項

1. 小委員會に於て立案せるものを如何に取扱ふべきかにつき協議し決定し、石川, 石塚, 菊池, 黒田, 阿部, 目黒, 杉戸, 町田, 奥田各委員, 廣瀬國務幹事に起草委員を依頼す。

2. 得たる成案を幹事會案として全體委員會に於て審議すること。

防空土木第 7 部小委員會 (昭. 16. 4. 10.)

出席者: 藤井小委員長, 鈴木委員外 10 名

- 1. 幹事より原案の説明あり、各委員との質疑應答の後、原案訂正の上委員長一任とす。
- 2. 菊池, 町田, 大田尾各委員は殘留後案を纏む。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 16. 3. 28.)

出席者: 青木委員長, 瀧尾委員外 5 名, 徳丸囑託

- 1. 日本ニュース映畫社より購入せるタコマ橋墜落並に信濃川水力發電工事その他の映畫を試寫。
- 2. 4 月 17 日の映畫會上映のフオラム選定は東寶關係を澤委員に外映關係を徳丸囑託に一任。

編 輯 部 記 事

第 3 回會誌編輯委員會 (昭. 16. 3. 12.)

出席者: 廣瀬委員長, 岡委員外 10 名

- 1. 第 27 卷第 3 號發行遅延は事情止むを得ざるものと認む。

2. 第 27 卷第 5 號登載原稿を次の如く決定

論説報告: 海工用巨大塊體に關する研究(其の 3)
(會, 鮫島 茂), Quebec 橋の破壊に關する一考案(會, 安宅勝), 振動問題に對する相反作用の定理の應用と Rayleigh の原理に就いて(會, 最上武雄), ドイツに於ける鋼橋應力及び振動測定並に熔接鋼橋のレントゲン試験見學(會, 新郷高一)

叢 報: 港函病に就て(會, 山崎匡輔), 橋梁測定法(會, 新郷高一)

抄 録: 重力堰堤の斷面決定, 拱橋に及ぼす風壓, 米國陸海軍基地に於ける排水工法, 沈埋式トンネル, 港函の設計と施工, 不振地質標本採取器, 三軸壓縮試験の圖解法の解説

3. 今後は各委員に於て講演, 論説報告, 彙報等の審査に於て防壁上の支障の有無を詳査すること。
4. 抄録委員に關する件は友永, 藤森兩委員に一任すること。
5. 工事寫眞, 彙報を至急各委員より募集すること。

調 査 部 記 事

水理公式調査委員會全査會 (昭. 16. 1. 27.)

出席者: 鈴木委員長, 富永, 廣瀬, 島野, 阿部各主査

各部會の進捗狀況及び用語問題等に就て打合せを行ふ。各部會は 2 月中に大體の成案を作製し, 3 月中に各部聯合の委員會を開く事。

水理公式調査委員會幹事會 (昭. 16. 3. 22.)

出席者: 安藝, 本間兩幹事, 杉戸, 福田, 横田, 佐藤各部幹事, 内田囑託

各部會の進行狀態を報告し, 今後の方針を決定。

1. 各部會の報告を出来る限り早く提出し各委員に頒布すること。
2. 全委員會を 3 月 31 日に開くこととし, その議題を次の如く纏む。
3. 各部會の進行狀況の報告と整理。
4. 第 4 部會の逐條審議。

水理公式調査委員會 (昭. 16. 3. 31.)

出席者: 鈴木委員長, 安藝, 本間兩幹事, 廣瀬委員外 22 名

1. 各部會の進捗狀況に付き各部會幹事より報告。
2. 各部會間の形式統一に關する討議。
3. 第 4 部會草案に就きて逐條審議。

水理公式調査委員會 第 1 部會 (河川) (昭. 16. 4. 2.)

出席者: 富永主査, 安藝幹事, 阿部委員外 4 名,

内田囑託

部會草案に就きて討論を行ふ。

水理公式調査委員會 第 1 部會 (河川) (昭. 16. 4. 4.)

出席者: 富永主査, 安藝幹事, 阿部委員外 2 名, 内田囑託

4 月 2 日の部會に引續き草案に就きて討論を行ふ。

コンクリート調査委員會 (第 35 回堰堤コンクリート小委員會) (昭. 16. 4. 1.)

出席者: 沼田委員長, 吉田委員外 10 名

協議事項

第 1 章より第 4 章迄解説に付逐條審議。

コンクリート調査委員會 (第 12 回一般構造物コンクリート小委員會) (昭. 16. 4. 4.)

出席者: 沼田委員長, 淺井委員外 7 名, 芝地君

1. 前々回保留せる第 11 章水中コンクリート第 53 條コンクリート打ちを審議。

コンクリート調査委員會 (第 13 回一般構造物コンクリート小委員會) (昭. 16. 4. 8.)

出席者: 沼田委員長, 内山委員外 4 名, 磯崎君外 1 名。

1. 第 11 章水中コンクリート第 53 條コンクリート打ち第 53 條袋詰めコンクリート, 第 13 章海水の作用を受くるコンクリート第 59 條總則を審議。

2. 次回は第 13 章海水の作用を受くるコンクリート第 60 條セメントの最少使用量より審議の豫定。

關 西 支 部 記 事

第 2 回役員會 (昭. 16. 3. 26.)

出席者: 後藤, 島, 清水, 岩田, 島崎, 平野各前支部長, 柳田商議員外 6 名, 佐藤防空土木委員會委員, 近藤同委員, 大島幹事長, 稻浦, 大森, 堀各幹事, 中川囑託外 1 名,

1. 第 1 回座談會開催に關する件その他。
2. 特別調査委員會に關する件。
3. 防空土木關西支部委員會報告に關する件。
4. 材料部會報告に關する件。

北 海 道 支 部 記 事

第 15 回役員會 (昭. 16. 3. 22.)

出席者: 小野支部長, 吉町, 神保兩前支部長, 河合商議員外 6 名, 大坪幹事長, 高橋幹事外 1 名。

1. 昭和 16 年度支部事業に關する件。
2. 役員異動の件。

そ の 他 記 事

土木學會誌第 27 卷第 4 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

大日本電力北海道支社	堀 内 弟 助	田 波 芳 三	堀 重 固	小 田 部 發
	日 比 佐 太 郎	田 代 隆 亮	佐 々 木 民 藏	(3 級)
朝鮮窒素肥料株式會社	白 石 宗 城	伊 藤 文 吉	高 坂 征 文	(3 級)

正 會 員 (入 會)

穴 澤 藤 作	高 橋 健 吾	谷 口 成 之	西 村 捨 二	藤 田 忠 勝	三 上 房 吉
吉 田 浩 哉	津 田 康 吉	池 盛 松			

准 會 員 (入 會)

相 原 敬 二	伊 丹 孝 市	石 倉 行 晴	市 川 實 賀	江 田 宇 之 助	小 倉 榮 造
小 畑 正 名	奥 野 宗 太 郎	河 村 眞 治	古 賀 壽 人	兒 玉 實 男	小 倉 榮 造
澤 田 喜 久 雄	志 賀 良 熙	高 津 紀 好	高 橋 豐 吉	丹 治 輝 雄	酒 井 田 幸 一
外 所 弘 治	豐 山 八 郎	中 井 菊 造	中 島 友 治	前 田 恒 雄	武 藤 俊 正
森 外 志 健	奥 田 幸 夫	横 田 朝 太郎	吉 山 保 夫	渡 部 井 忠	杉 本 正 一
鈴 木 健 郎	唯 野 豪	豐 島 茂 平	上 田 省 吾	溫 井 忠	

學 生 會 員 (入 會)

安 藤 彌 吉	中 村 和 夫	成 松 晴 夫	濱 口 禎 祐	福 島 穰	藤 井 三 郎
宮 脇 要 吉	本 洋 之 正	安 部 井 正 優	敦 見 吉 常	關 三 寶 雄	藤 井 三 郎
王 鳳 書 景	山 美 之 正	坂 野 泰 雄	安 丸 常 博	片 山 久 明	藤 井 三 郎
那 繩 武 中	村 一 正	中 村 泰 雄	松 浦 博	宮 下 明	藤 井 三 郎

正 會 員 (轉 格)

柴 崎 敏 行 松 見 三 郎

准 會 員 (轉 格)

王 貴 德	王 紹 孚	何 景 福	何 寶 尊	金 匡 九	高 鐘 文
趙 國 政	楊 興 斌	羅 鴻 年	劉 恒 興	劉 世 凱	

特 別 會 員 (等 級 變 更)

北海道水力電氣會社 (3 級)

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 16. 3. 24. 現在)

正 會 員	准 會 員	學 生 會 員	特 別 會 員	發 助 會 員	合 計
3637	5142	1431	123	25	10358

准 會 員 郡 司 次 夫 君 の 訃 報 に 接 し、本 會 は 恭 しく 哀 悼 の 意 を 表 す。

1. 人工景
て製作し
船體とク
の、船體を
むるもの、
備費高價
滑走に屬
造船用
増し 1/10
船舶と洋
間に相等の
i) 船舶
臺單位面積
足るも、荷
ii) 前項
の場合には
ればならぬ
iii) 船舶
は建造後局
反し、函塊
は快にて支
iv) 船舶
ねばならぬ。
僅かなる歩行
要なる一項目
2. 普通
函塊用斜脚
次の如きもの
* 内務社

DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXVII, NO. 5, MAY 1941.

CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society	27
Papers	
A Study on the Huge Precast Bodies in Maritime Works. (Part III) Appendix—Several Actual Examples at Yokohama and Other Ports. <i>By Sigeru Samesima, Dr. Eng., Member.</i>	433
Methods of Statical and Dynamical Measurements of Steel Bridges. <i>By Takaiti Singō, C. E., Member</i>	451
A Study on Destruction of Quebec Bridge. <i>By Masaru Yasumi, C. E., Member</i>	466
On the Application of the Reciprocal Theorem to the Vibration Problems and its Relation to the Principle of Rayleigh. <i>* By Takeo Mogami, C. E., Member.</i>	476
Notes on Matters of Interest	484
Abstracts of Selected Articles	515
Patent News	534
New Publications	537

OFFICE

No. 8, 2-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.